

令和6年度 第2回神戸市総合基本計画審議会 議事要旨

開催日時：2024年6月6日（木曜）13時～15時

開催場所：神戸市役所1号館14階 大会議室

出席者：

氏 名	役 職
飯田 裕生	連合神戸地域協議会 副議長
石川 路子	甲南大学 経済学部 教授
稲垣 賢一	一般社団法人 兵庫県中小企業診断士協会 理事
岩田 かなみ	株式会社W SoWeluコミュニティマネージャー
浦島 理恵	インスタグラマー
小野セレストア摩耶	同志社大学 社会学部 准教授
嘉納 未来	ネスレ日本株式会社 執行役員（コーポレートアフェアーズ 統括部長）
佳山 奈央	La vie est belle株式会社 代表（サトプレイスPORTOを運営）
客野 尚志	関西学院大学 総合政策学部 教授
國弘 正治	西日本旅客鉄道株式会社 理事（近畿統括本部・兵庫支社長）
久保 陽香	有限会社Lusie（元 神戸地域おこし隊）
佐合 純	iC株式会社 代表取締役
品田 裕	神戸大学大学院 法学研究科 教授
高瀬 勝也	神戸市会議員（公明党 幹事長）
中野 みゆき	特定非営利活動法人 Oneself 理事長
中村 浩一郎	株式会社三井住友銀行 公務法人営業第二部長
ながさわ 淳一	神戸市会議員（日本維新の会 団長）
服部 孝司	公益財団法人神戸市民文化振興財団 理事長
飛田 敦子	認定NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸 事務局長
藤岡 義己	一般社団法人兵庫県中小企業家同友会 代表理事 （株式会社 イエスプランニング 代表取締役）
森本 真	神戸市会議員（日本共産党 団長）
山下 裕子	全国まちなか広場研究会 ひと・ネットワーククリエイター／広場ニスト
よこはた 和幸	神戸市会議員（こうべ未来 団長）
和田 真理子	兵庫県立大学 国際商経学部 准教授

欠席者：

河南 忠和	神戸市会議員（自由民主党）
-------	---------------

（敬称略、五十音順）

1. 開会

2. 辻局長挨拶

- ・本日、令和5年度の合計特殊出生率が1.20、加えて合計特殊出生率が1を切る東京に一極集中との報道があった。人口減少が加速する中、経済活動の維持や、出生率の低下や東京一極集中への歯止めに向けた働き方改革による仕事との両立、生涯所得の向上など、（出生率は一義的には国策かと思うが、）国だけではなくて、自治体、企業、学、官含め、国民が危機感を持って課題を共有し、各自で主体的に取り組むことが重要だと考えている。
- ・総合基本計画では、市民や企業、事業者、団体等の市政参画を促す機会となることから、こうした社会課題に立ち向かう上でも重要である。
- ・4月19日（金）の第1回審議会において、各委員よりいただいた意見や、改めて市民よりいただいた意見も踏まえ、基本構想の修正を行った。特に産業と仕事の観点については、力強さが伝わる表現を追記した修正案となったと思っている。
- ・本日は、この基本構想修正案を基に、改めてその文言なりスローガンについて、議論いただきたい。
- ・今後は、本日の議論の結果を踏まえ、再度修正案を作成し、パブリックコメントを実施する予定。その後、第3回目審議会で、パブリックコメントの意見を踏まえた審議を経て、次期基本構想の策定に繋げていきたいと考えている。
- ・前回に引き続き、本日の審議会でも、委員それぞれの専門的な立場から御意見を賜ればと考えているので、よろしくお願いしたい。

3. 議事（文言について）

<事務局>

- ・資料1 基づき説明

<委員>

(1)多様性にかかる表現について

- ・多様性とは、家族の形や、LGBTQ、働き方など、色々と使われる言葉になっているため、修正後の表現が良い。
- ・『多様性があふれる明るい気風』について『明るい』が余計に感じる。仕事に向きって汗水流しているといった意味合いを加え、『ひたむきで多様性があふれる気風』としてはどうか。
- ・『明るい』『暗い』も多様性のひとつ。『開かれた』でもいいかもしれない。

(2)産業、仕事の観点の必要性

- ・『まちの伝統と新しい技術』について、古いものと新しいものを融合するのは

良いが、伝統という言葉が古過ぎる。神戸における伝統とは、近現代のものなので、『受け継いだものと新しい技術の融合により』といった方が良い。

- ・『培ってきた経験』が、『まちの伝統』などの受け継いだものと重なる。
- ・『グローバルに貢献するまちへ』について、『グローバル』には、開かれたといったいい意味がある一方で、欧米中心の資本主義競争により地域が疲弊したイメージ。現在、欧米中心の世界の価値観が大きく揺さぶられている時代でもあり、『世界』に置き換えた方が長続きする表現だと思う。

<会長>

- ・事務局から、委員より意見のあった『グローバル』『まちの伝統』『経験』とった部分の補足説明をいただきたい。

<事務局>

- ・『培った経験』や『グローバルに貢献するまち』の意図は、神戸は、阪神淡路大震災の時に、国内外からの支援で乗り越えてきた歴史があり、この経験を踏まえ、現在、貢献していく都市を目指している。例えば、2024年当初に能登半島地震が発生したが、職員による人員支援はもちろん、阪神淡路大震災の経験を生かした支援や、産業面等での国内・国外への貢献など、様々な意味を込めている。

<委員>

- ・『時代を彩る産業を育てるまちへ』について、違和感を感じる。産業を主体的に際立たせる意味で、『産業が育つまち』というように『産業』を主語にしてしまうのも良いかと思う。
- ・『産業が』という議論について、『産業を育てる』とした方が、ベンチャー等の新たにビジネスを始める人を支援するとのメッセージにもなる。『産業が』とすると、既存産業が想起され、神戸が目指している姿とは違うように感じるため、『産業を育てるまちへ』の流れが良いと思う。
- ・ベンチャー的な企業を育てるのも視点としては必要だと思うが、産業にも多様性があり、また、産業は時代を彩るもので、その時々にはいろんな産業があり、大きいもの、小さいもの全てがしっかりと育つという意味で考えると、『産業が育つ』の方が望ましいと思う。
- ・5段落目、6段落目で、『個性を発揮』や『夢に挑戦』など、個人がアクションしていくといった文言はあるが、もう少し個人の仕事の要素が入ってきても良いのでは。今、『産業が育つ』『産業を育てる』の議論があったが、1人1人が仕事をつくって産業を育てるという面と、仕事がある豊かなまちで産業が育つといった両面を取り込む表現が良いと思う。
- ・『グローバルに貢献するまち』に違和感を覚えた。本来の日本語では、『グロ

ーバル』という形容詞の後に名詞が来るのではないか。それは、地域なのか、周りの人なのか、他都市なのか、ここでは分からない。神戸には、コミュニティや、周りの人のために一生懸命生きている人がいる。グローバルとすると、地球儀を思い浮かべてしまうので、そういった足元で貢献している人が認められるような名詞が入ったら良いと思う。

- ・『グローバル』という言葉が、将来も残る表現かと疑問に思う。これから益々ボーダレスになっていく中で、この『グローバル』には、地域社会に貢献するという意味なのか、神戸発で日本や世界に羽ばたいて活躍するという意味なのか、貢献の意味もどのように解釈すべきか疑問を感じた。

<会長>

- ・『貢献』の内容について事務局より補足説明いただきたい。

<事務局>

- ・『グローバルに貢献』とは、世界へ羽ばたくというイメージではなく、いろんな世界の都市に対して、貢献していきたいという表現。

<委員>

- ・前回の審議会で、『グローバル』について、国内の陸の要素を追加すべきという提案をした。やはり、グローバルとは、一般の方からすると、世界に目が向く表現なので、代わりに『国内外』や『地球規模』といった表現はどうか。
- ・産業のパートに『グローバルに貢献するまち』とあるので、世界に羽ばたく意味に解釈していたが、先ほどの事務局より「震災で支援を受けたため、国内外で何かあったときに自分たちも貢献していきたい」という思いを聞き、良い考えだと思った。そのうえだが、産業のパートではなく、1つ前の段落の繋がりの中で、『国内外に貢献できる』としても良いのではないか。
また、『グローバル』についても、産業の前提には人々の仕事があり、また、産業を大きくしていくためのベースに地域があるので、地域性とか、小さなコミュニティという観点が抜けた危うい表現だと感じた。
- ・私も、産業がグローバルに飛び立っていくように感じていた。事務局の説明を聞き、神戸らしい良い内容だと思ったので、『貢献』にかかる表現は、4段落目の後、産業パートの前に持ってきたほうが良い。また、『グローバルに貢献』では、意識が世界に向いてしまうが、実際は隣町や隣人等の近くにも貢献することができるので、あえて対象を書かなくても良いのではないか。
- ・神戸の産業は、国際的なものだけではなく、地場産業も特徴。『国際社会や地域社会に貢献するまち』といった形にすると、地元コミュニティも大事という意味が込められるのではないか。
- ・私も『グローバルに貢献』の位置に疑問がある。事務局から、震災で受けた恩

を世界に返していくという意味合いがあるとの説明があったが、そうならば産業のところでなくても良い。

(3) ダブルクォーテーションおよび子育ての観点について

<会長>

- ・その他、事務局より議論すべき観点があれば説明いただきたい。

<事務局>

- ・議論いただきたい観点の1点目は、ダブルクォーテーションについて。前段3段落では、キーワードを強調するために使用しているが、後段の今後の目指すべきまちを表すキーワードには使用していない。ある委員より、こちら也非常に重要な部分であり、ダブルクォーテーションで強調したほうが統一感が出ると意見を受けている。
- ・事務局では、前段のダブルクォーテーションは、今の神戸のまちや人の魅力について、既に確定しているイメージを強調させるために使用しており、後段は、未来のまち、不確定な要素に思いを馳せながら、最終段落で、今までもこれからも紡いでいきたい誇りを強調させ、全体として締める印象の効果を狙って使用した。
- ・ダブルクォーテーションは、一般的に引用と強調に使用するものだが、この基本構想の通読時は、一旦止まる効果が生じる。全てのまちにつながる単語に使用すると、数が多く読みづらくなり、強調すべき点が不明瞭になってしまう。
- ・また、本文中に『あたたかみのあるまち』という文言があるが、こちらは震災当時、神戸出身で直木賞作家の陳舜臣氏が、神戸新聞に寄稿した内容を引用したもの。その寄稿文は、当時、誰もがどん底に落ち込んでいたときに差し込んだ一筋の明るい光として、多くの人に、もっと神戸を素晴らしいまちにするのだという希望を与えたと聞いている。
- ・事務局としては、①ダブルクォーテーションを使用しない、もしくは②引用した『あたたかみのあるまち』部分のみ使用する、または③今の現案、の3案のいずれかが良いと考えている。
- ・2点目は、子育ての観点。昨年度頂戴した市民からの意見をワードクラウドで分析したところ、未来の神戸に期待するものとして、“子供”や“子育て”というような言葉が出てきている。
- ・これから、子供、子育て支援の重要性は極めて高く、市民からも多く意見が寄せられたことを踏まえ、委員より、基本構想の中でもそういった観点を大事にするという姿勢を表現すべきではないかという意見があった。
- ・事務局としては、4段落目の『世代や立場を超えたつながり』や、6段落目の『誰もが人に寄り添って助け合いながら』の部分で、子供や子育ての要素を包

含していると考えているが、この点についてもご意見を伺いたい。

<委員>

- ・ダブルクォーテーションの多用はよくない。どこがポイントなのか分かりにくくなる。例えば最初の段落の“みなとまち”とあるが、何かを象徴している訳でもないので、この使い方は意味がない。その次の『神戸は“多彩な表情を見せるまち”』は、抽象的表現なので使っても良いとは思う。

(子育てについては意見なし)

(3) ゆとりある暮らしについて

- ・第6段落の“ゆとり”という言葉について、ゆとり世代という言葉や、生活がきつい方からすると遠くに感じる可能性があり、イメージがばらつくのではないか。代替案として、例えば、『自然の恵みと人の営みが織りなす 心豊かな暮らしができるまち』はどうか。

(4) スローガン

① 設定要否について

- ・スローガンは下位の基本計画やビジョンに任せれば良い。陳腐化する可能性があるのと、一言で神戸を表すのは大変難しく、抽象度が上がってしまう。
- ・スローガンはやめたら良いと思う。
- ・この基本構想が、市民の皆さんや、他都市の方々に見てもらうときに、例えば、『ずっとみんなに愛されるまち神戸』といったものがあつた方が、基本構想の紹介の表題として、より訴えやすいと思う。
- ・スローガンを、下位計画の基本計画やビジョンに落とし込むという話もあつたが、基本構想自体を行政内部の目標として設定するだけならばそれで良い。しかし、子供や外国の方など、期限なしで、神戸のまちの方向性を共通認識化したいなら、一言で分かりかつ抽象度が高い言葉があつたほうが良い。
- ・人によって神戸の捉え方、どうあるべきというのは全く違うので、皆さんが納得するスローガンは難しいと思う。その意味では多様であっても良く、ワンワードというところにこだわらなくても良い。子どもやシニア、障害をもつ方、外国籍の方などそれぞれが思うスローガンがあっても良いのでは。

② 設定の意義

- ・スローガンと言うと、こうあらねばならないという意味が含まれると思うが、神戸はバラエティーに富んだまちなので、スローガンではなく、基本構想のための前文みたいなものが良いのでは。例えば、『神戸でよかった』とか、前文があることで、その文章がうまく流れる道標になれば良いと思う。

- ・私もスローガンという言葉に違和感がある。タイトルというか、鍵括弧つきのスローガンということで、プロモーション、PRのときに多く使うような柔らかい位置づけにしたい。

③検討方法

- ・スローガンの有無はどちらでも良いと思っていたが、ふわっとした感じで設定することで良いと思う。スローガンが何になるということよりも、多くの市民の方に関心を持っていただき、意見を出しあって作るというプロセスが大事。
- ・どうPRしていくかが大事で、構想のスローガンをみんなで作るという企画を行うなら、必ず構想をしっかり読んでもらえると思う。色んな団体等をお願いし、公募を行っていくのが、裾が広がって良いように思う。
- ・市民の皆さんから集めることに賛成。みんなで神戸の未来のことを考えていくから、意見を集めているという背景を伝えることに意義がある。今までアプローチをしていなかったような人たちの中にも、自分のこととして考えてもらえるよう伝え方を工夫してほしい。
- ・所属する団体で公募することも可能。みんなでやっていくってことが大事。
- ・神戸の歴史を振り返りながら、これからどんなまちにしていくのかということはこの審議会で議論し、修正した構想案をパブリックコメントにかけていくが、昨年度に意見をもらったところにもフィードバックしながら、豊かな構想にしていきたい。その中で、子供たちや、子育て中の若い方、高齢者の皆さんの思いなど、我々だけでは考えられないような視点も、いろいろ出していただいたら良い。

④スローガン案

<会長>

- ・スローガン案があがっているが、事務局の考え方について説明いただきたい。

<事務局>

- ・我々より5案ほど例を挙げたが、絞らないといけないのではなく、別案があれば紹介していただきたい。市民に提示するのであれば、沢山あると選択しづらい可能性もあるため、5案程度並べながら、自由に記述できるようにしたい。

<委員>

- ・『AND神戸』という案について、『AND』のAは、アルファベットの一歩初めの文字だと推測したが、そうするとA t o Zで、Zも入れたい。『AND神戸，ZUTTO神戸』とすると、A t o Zで最初から最後まで神戸というニュアンスが出て良い。
- ・スローガンの作成にあたり、多くの市民の方に基本構想を読んでもらえるよう見える化してはどうか。例えば、子供たち向けに、動画で見てもらうとか、

市民みなで、基本構想を読んだ上でスローガンを考えてもらうなど、応用できないか。

我々で決めたものを提示すると、なかなかみんなに基本構想を読んでももらえない可能性がある。

- ・ 代表的なスローガンは公募で良い。その一方でスローガンは多様であり、いくつもあってもいいと思うので、市民1人1人が基本構想を読んで、神戸をこうしていきたいという、自分ならではのスローガンをつくってもらうのはどうか。
- ・ スローガンは1つの言葉では表現しにくいので、先ほど意見があった、みんながそれぞれ思うスローガンを決めるという取り組みは良いと思う。5、6年前にSMiLe1000というプロジェクトがあり、子供からお年寄りまでがホワイトボードに『自分の神戸』を書き、写真を撮って発信していたが、あの取り組みは良かったと思う。ああいう形でワークショップをして、自分のスローガンを書いて写真で拡散していくとなると楽しいと思う。

4、議事（プロモーションについて）

<事務局>

- ・ 資料4に基づいて説明

<委員>

- ・ 前回の審議会で、子供たちと一緒に基本構想についてディスカッション出来たら面白いという意見があった。神戸は開港から約150年だが、実際はもっと歴史のあるまちであり、例えば、基本構想を入口に、源平合戦の話など、過去の神戸をみんな学び直すのも良いのではないか。
- ・ 基本構想について、小中高大専門学校の方から意見を出してもらい、若い人も納得できる内容にブラッシュアップしてはどうか。
- ・ プロモーションの媒体を新規で考えるのも1つだが、今まで神戸のブランドとして築いてきたもの、例えば神戸タータンなどをプロモーションに有効活用できれば、相乗効果もあって良いのでは。
- ・ やはり、SNSで若い子たちに興味を持ってもらい、募集する形がいいのではないか。検討されているフォトコンテストは、私も実際参加したいと思ったので、そういった取り組みから興味を持ってもらえたら良いと思う。
- ・ 例えば、神戸市でも、フォートナイトというXR上のゲームの中で、有馬温泉の金の湯を遊ぶといった取り組みがあったが、XRの世界を使って何か体験できたり、自分なりの小さい神戸をつくったりと遊びを組み込んではどうか。病気治療中や、障害をお持ちの方など、外に出られない子供たちも、そういったテクノロジーを使うと楽しく参画できる。遊びの要素とテクノロジーの融合で、子供たちからエンタメ要素に興味がある大人、大学生ぐらいまでを巻き込むきっかけになる。

- ・神戸市の未来を作るという企画を、オープンコンテンツとして民間事業者を通じて発信していくのはどうか。各事業者は、それぞれ事業対象となる世代や得意な領域があると思うので、ある程度のレギュレーションだけ設定し、各事業者が自由に発信できるようになれば、表現の手法や、参加者も増えてくるのではないか。
- ・基本構想に、各文言の意味・意図などをまとめた解説をつけるのはどうか。例えば、『幾度となく困難を乗り越えてきました』には、阪神淡路大震災も入っているなど、内容を伝えるには工夫が要と思う。
- ・熊本市のプロモーションの例だが、総合基本計画を、美術館とタイアップしてPRしている。ワークショップの開催やポップアップのグッズ作成など、多世代のいろんな感性の方々への多様なチャンネルを展開しており、感銘を受けた。
- ・以前、企画調整局の企画で、BE KOBE FILM AWARDという、企業が神戸の風景を取り込んで作るCMコンクールがあった。その時は、神戸の夜景や港といった我々がぱっと思う神戸のイメージが全面的に使われた作品ではなく、仕事で落ち込んだ社員をみんなで励ますといった心温まる風景や人情が強調された作品が入賞していた。基本構想も、内容を盛り込んだショートフィルム等をコンクール形式で募集し、入選作品を様々な場所で放映して見てもらうのはどうか。
- ・障害のある方や子供には、文章だと理解が難しい方もいる。例えば、そういった方に、色や雰囲気や伝えられるような絵のツールを作成して使っていけば、より広がっていくきっかけになると思う。
- ・プロモーションは、一般の方や芸術家の方など、いろんな方が表現する場になれば良いが、一般の方に公募へ興味を持ってもらうために、例えば、ショートフィルムなら有名な映画監督に作ってもらったものを応募作品のヒントとして公開すれば、多くの人に興味を持ってもらうことができると思う。
- ・基本構想は、これから20年後、30年後の未来を皆さんに描いてもらうことになるので、アバウトでも良いので、まずは子供たちを中心に、将来こんな神戸になって欲しいと考えてもらいたい。

5. 閉会 辻局長挨拶

- ・多様な御意見をたくさんいただき、御礼申し上げます。なるほどという意見がたくさんあった。
- ・基本構想中の『グローバル』の記載位置について、我々はこれまで受けてきた国際的な支援をお返しするということと、これからのまちの飛躍も含めて、神戸2025ビジョンで使われている『グローバル貢献都市』という言葉を取り込んでいたが、皆さんのご指摘を受け、産業のパートに入れ込むことは、前後の文脈から少し違和感があるように感じた。また、『グローバル』という言葉が分かりにくいという意見についても、そのとおりだと思った。個人的には、『グローバル』の位置を動かすのであれば、『培ってきた経験』『知の集積』という表現を、産業パートに入れ、産業と人という要素を含めていきたいと考えている。

- ・多様性の部分では、『明るい』という言葉が矛盾にしているように感じた。
- ・スローガンについては、まずはいかに基本構想を多くの市民や事業者の方に知ってもらい、読んでもらう機会をつくるかが大事であり、公募も含めて、市民の方に考えてもらう機会を作っていく必要性を感じた。
- ・今後は、プロモーションを念頭に置きながら、出来るだけ市民1人1人が、幸せになれることを実感できる基本構想となるよう修正を進めていくとともに、基本構想と同時並行で、まちの中長期的なビジョンとなる『基本計画』の策定も進めていく。本日いただいた意見を踏まえ、品田会長と調整しながら基本構想を修正し、パブリックコメントを実施する。第3回の審議会では、その時に出た意見を報告させていただき、答申案の審議を進めていただきたいと考えているので、引き続きよろしくお願いしたい。